

第26回日本テニス学会

演題：テニスのシングルスゲームにおいて流れを掴む局面でのプレーとは

-2014全豪オープンテニス ナダル対錦織を考察する-

○宮地弘太郎（大阪体育大学）道上静香（滋賀大学）細木祐子（園田学園女子大学）梅林薫（大阪体育大学）

1. はじめに

テニスゲームにおいて、ポイントの8割が相手のミスによるといわれており、相手よりも1球多く返球することがゲームに勝利する基本的な考え方である。又、技術レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きが重要であり、いかに相手にミスをさせるかが戦術の基本となり、いつどこにどのようなボールを配球出来るかが勝敗を左右する要因であると筆者は考える。これまでの、ゲーム分析の背景はカテゴリー別に見るショットの頻度、ラリー数、サービス、リターン成功数等が殆どであり、実際のゲームの流れの中で重要な要因を抽出し明らかにするものは数少ない。そこで、本研究においてはシングルスゲーム局面を細分化するにあたり、エキスパートな指導者にインタビュー調査を実施しそこで得られたデータを基にゲーム分析を行い、指導現場における有益なデータを体系化する事を目的とした。

2. 方法

ゲーム分析対象は世界トップレベルである先の全豪オープンテニス 4R ラファエルナダル対錦織圭を題材にした。ゲーム局面の細分化の妥当性を求めるにあたり、1名のエキスパートな指導者(対象者A)、2名の元日本代表レベルであった指導者(対象者B)へのインタビュー調査を実施した。インタビューにより得たデータはSCATにより分析し、(4ステップコーディング→ストーリーライン→理論記述)データの客観性を求めるにあたり、メンバーチェック(フリック2002)を採用した。インタビューは、指導者と1対1の半構造化面接で行った。場所は、対象者の勤務先で静かな応接室内、全日本テニス選手権大会期間中に会場内の静かな会議室で行った。インタビュー内容は以下の3つとした。1)シングルスゲームにおいて流れを変える局面はどのような状況か 2)そこでのプレーについて 3)そこで考えている事についてであった。

3. 結果と考察

表1. インタビュー対象者Aの設問1における回答に対するSCAT分析

番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の内容	<4>テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5>疑問・課題
1	面接者	シングルスゲームにおいて流れを掴む局面とは、えーどうのような状況でしょうか？					
2	指導者	んーんすごい難しいですね。だから、自分が勝つためにやっていた事ってゆうのは、やっぱり、その一番最初セットを如何に取るかってゆうことをすごく重視していた。っていうことは言えると思います。まあ5セットマッチってゆうのはデ杯で経験した事はあるのですが、んーまあほとんどの試合が3セットマッチで、3セットマッチを優位に取るには、1セットを取ってまあ相手にプレッシャーを掛けるとか、自分の有利なパターンに持ち込むとゆう事を考えていて、んーそう考えると、その1セットの出だしをいいスタートを切れるかってゆうところを、すごく考えていた。ただ、自分はそのあまりスターが良くなって、どちらかというと追いかけて挽回するという、パターンが多かったんで、まあ、日頃からその、その日の朝の何時に起きて、どんな練習をウォーミングアップして、まあ、試合前に軽くダッシュとか、まあ今ほど細かいトレーニングはしてませんでしたが、そういう身体を起こすとか、試合にうまく入ってゆく、ってことは気を使ってやっていたと思います。えーまあ仮に、あの1セットを巧く取れた後は、そのセカンドセットの後半ではなく、前半の3ゲームを集中する事に、全精力を傾けて、相手の反撃早いうちに掴むとゆうことを考えてやりました。勿論、相手は後がないので前半、全力でやる、そこで1セットを取ったとゆうことで落ち着いていってしまうとブレークを先攻してしまい、相手に流れを渡す事があるので、んーもう早い段階で相手のフルパワーのときにこっちの押さえることを意識した。まあ、そうすれば相手の何てゆうんですね、体力面であったり、メンタルを取りにきた選手を押さえる事ができる、メンタルを崩すとか、もうだめなんだっていう風に思わせる事ができて、わりかしスムーズに勝つ事ができるんじゃないかっていう事を考えてやりましたね。まあ特にインカレ2連覇がかかっていたときや、全日本選手権になったときにはそういうことを強くおもってやりましたし、実際には、対戦相手のことを嫌がっているんだけど、もうそういう雰囲気を見せないで、うまくそういう雰囲気を読んで先手を打って勝つてゆう事がいくつかの試合ではうまくいった事を覚えています。	勝つため、3セットマッチ、優位、1セット重要視、出だし、いいスタート、入り方、体力、メンタル、前半3ゲーム、集中、プレッシャーをかける、5セットマッチ、デ杯、全日本、インカレ	準備、立ち上がり3ゲーム重要視、会場での立ち振る舞い、重要大会(3セット、5セット)	心技体 総合的準備、序盤(第1局面)における戦術	ゲームを優位に支配するためには、総合的準備(心技体)プラス序盤(第1局面)での戦い方が重要である。	具体的にどのようなプレーをコート内で実践するべきか？ 技術的要因

表2. インタビュー対象者Bの設問1における回答に対するSCAT分析

番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)	<5>疑問・課題
1	面接者	シングルスゲームにおいて流れを掴む局面とはどんな状況ですか？					
2	指導者	状況状況によってすごい多様化してるっていう現状があるのだけれども、大体選を送り出すときに、伝えている事は、出だし、出だしで主導権をしっかりと取る。えーとよくあるケースで、試合全体を通して一番最初の方に、ターニングポイントが来てるってゆうシーンが結構増えてるんですけど、まだ体が暖まってない、ゆーくり始めちゃってるっていうことで、一番最初に15-40で相手のサーブ、ブレークポイントが来てるのに、なんとなーく、落としたしまった事で、そのままするブレークできないままで、負けてるってゆう試合を分析したときに、一番最初さえ取ってあげば、結局そこしかチャンスが来ない。相手のサービスももうATPのトップの方になると結構きわどいし、で、チャレンジャークラスになると、まあ正直知らない選手が沢山いて、トップのグランプリまで行けばしょっちゅう顔合わせる。まあ正直いろんな地域行くとき正直いろんな選手が居る中で、最初のゲームをしっかりと押さえてあげば取れたなーというところも実際ある。そんな中でまず最初！ここをワンチャンス来たんだから押さえてしまえ！ただ、そういう風に言ってる試合に入っているも、局面局面でどこにターニングポイントがあるか分からない現状。そうなったときに、やはりそのブレークアップしたとき！よーはゲームが動いたとき、男子のサーブは基本的にサービスキープが主体となって、ゲームが進むって言うシーンが結構多い、で、そんな中で試合が動いていうのはブレークが起こったときだよ！だから先にブレークされたら、ブレークバックしておかないと、重大な致命傷になるケースがある。逆にブレークをしたときに相手は、確実にブレークバックしようとして、要するに、力を増してくる！じゃあそこを押さえられるっていうのが、まずリードが出来るのかっていうところに大きく関わってくる。まあ、自分の中で局面を変えるのは、ブレークが起こったところで、つどつど、いわゆるゲームが動く。流れがかわる局面が生まれるんじゃないかなーと思う。	状況状況によりすごい多様化してるっていう現状。出だしで主導権をしっかりと取る。一番最初の方にターニングポイントが来てるってゆうシーンが結構増えてるってゆうことで、一番最初に15-40で相手のサーブ、ブレークポイントが来てるのに、なんとなーく、落としたしまった事で、そのままするブレークできないままで、負けてるってゆう試合を分析したときに、一番最初さえ取ってあげば、結局そこしかチャンスが来ない。相手のサービスももうATPのトップの方になると結構きわどいし、で、チャレンジャークラスになると、まあ正直知らない選手が沢山いて、トップのグランプリまで行けばしょっちゅう顔合わせる。まあ正直いろんな地域行くとき正直いろんな選手が居る中で、最初のゲームをしっかりと押さえてあげば取れたなーというところも実際ある。そんな中でまず最初！ここをワンチャンス来たんだから押さえてしまえ！ただ、そういう風に言ってる試合に入っているも、局面局面でどこにターニングポイントがあるか分からない現状。そうなったときに、やはりそのブレークアップしたとき！よーはゲームが動いたとき、男子のサーブは基本的にサービスキープが主体となって、ゲームが進むって言うシーンが結構多い、で、そんな中で試合が動いていうのはブレークが起こったときだよ！だから先にブレークされたら、ブレークバックしておかないと、重大な致命傷になるケースがある。逆にブレークをしたときに相手は、確実にブレークバックしようとして、要するに、力を増してくる！じゃあそこを押さえられるっていうのが、まずリードが出来るのかっていうところに大きく関わってくる。まあ、自分の中で局面を変えるのは、ブレークが起こったところで、つどつど、いわゆるゲームが動く。流れがかわる局面が生まれるんじゃないかなーと思う。	流れ局面はブレーク時。ターニングポイントは分からない。男子ゲームはサービスキープが基本。ワンチャンスは押さえる。	男子の戦略、ターニングポイント。数少ないチャンス。ブレーク時	男子ゲームの「様相」は、『サービスキープが基本戦略』であり、『流れがかわる局面は』サービスゲームをブレークしたとき。	

インタビューから得られたデータを、ストーリーラインでつなぎ、理論記述し、概念図を作成した。そこから抽出した項目は、設問1〈サービスブレーク後〉〈ブレーク後のサービスゲーム〉〈立ち上がり4ゲーム〉 設問2〈1stサービスの確率、リターン返球率、その打球方向〉〈セーフティプレー〉 設問3〈客観視〉〈ギアチェンジ〉〈攻める気持ち〉であった。そこで得た項目を分析し統計処理を行った結果より2人のプレイヤーは、サーブ、リターンでは、60%以上の返球率、ラリー戦においてはクロスやセンター方向に返球しており、重要な局面においては確率の高いプレーを遂行している事が明らかになった。今後更にサンプル数を増やしより客観的なデータを体系化する事が課題である。

表2 質的データより得られた項目による統計データ

	1STサーブ確率	リターン返球率	クロス/センター方向	ストレート方向
NADAL	65.3%	80%	86%	15.3%
NISHIKORI	61.2%	66%	80%	20.4%
	$\chi^2=1.603, df1 .n.s$		$\chi^2=0.01, df1 .n.s$	
	リターン返球率			
NADAL	80%			
NISHIKORI	66%			
	$\chi^2=0.178, df1 .n.s$			

4. 文献

- 1) H Brody (2006). Unforced error and error reduction in tennis, Brjrsports Med, May, 40 (5) :397-400
- 2) 新版 質的研究入門, 人間の科学の為の方法論, フリック, 2011
- 3) 新版 テニス指導教本 日本テニス協会編, 大修館書店, 2005.
- 4) 大谷 尚 (2008a). 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案-着手しやすい小規模データにも適用可能な理論家の手続き-, 名古屋大学大学院教育発達研究科紀要 (教育科学), 54 (2), pp. 27-44.
- 5) 小屋根早知子, 高屋敷明由美, 前野貴美, 前野哲博 (2014), 日本プライマリーケア連合学会誌, Vol37, no3, p219-224.
- 6) 吉田美穂子, 奥野雅子, 石井佳世, 花田里欣子, 長谷川啓三, (2005) 臨床に役立つ基礎研究開発に向けて -相互作用の視点から- 日本家族心理学会第22回大会発表論文集 19-20.